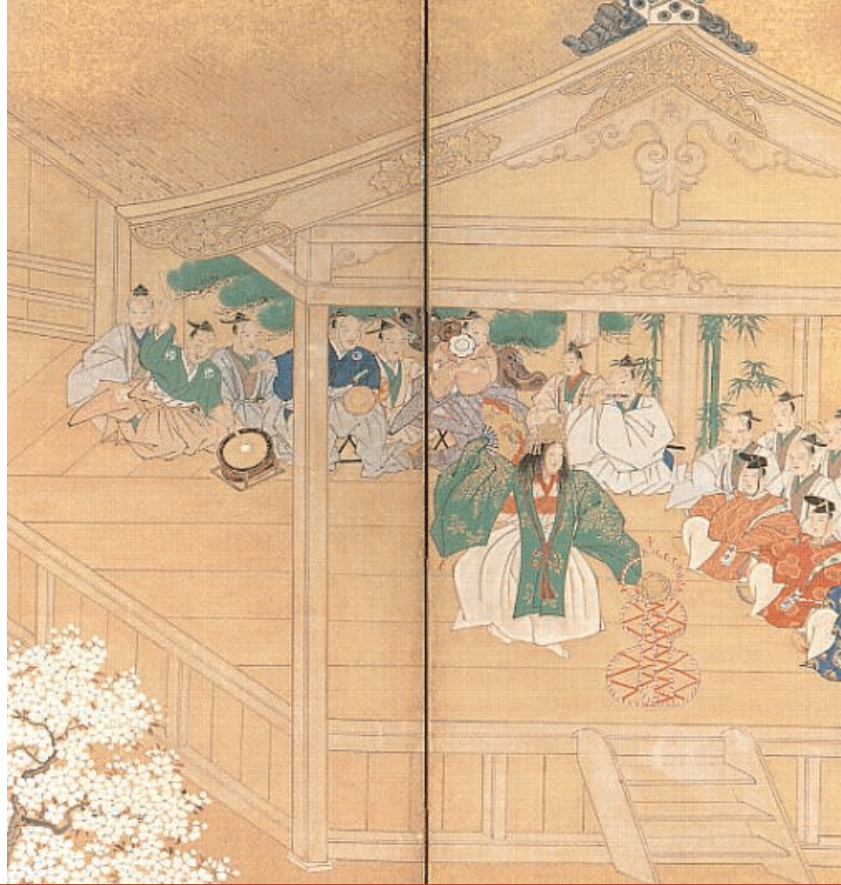


特別展 国立能楽堂コレクション

# 描かれた能 — 絵で楽しむ、文様が語る —

平成21年12月19日(土)～平成22年2月14日(日)



## 【開催概要】

細見美術館

<http://www.emuseum.or.jp>

特別展 国立能楽堂コレクション

# 描かれた能 — 絵で楽しむ、文様が語る —

開催概要

- 展覧会名 特別展 国立能楽堂コレクション  
描かれた能 — 絵で楽しむ、文様が語る —
- 主催 細見美術館
- 後援 (予定) 京都府教育委員会・京都市教育委員会  
京都市内博物館施設連絡協議会・NHK京都放送局
- 特別協力 独立行政法人日本芸術文化振興会
- 会期 平成21年12月19日(土)～平成22年2月14日(日)
- 開館時間 午前10時～午後6時 (入館は、5時30分迄)
- 休館日 月曜日 (祝日の場合、翌火曜日)  
年末年始 12月28日(月)～1月1日(金)
- 入館料 一般1000円 (800円) 学生800円 (600円)  
※( )内は20名以上の団体料金

## 開催趣旨

600年以上の歴史と伝統を持つ日本最古の歌舞劇「能」と「狂言」。

2008年に開館25周年を迎えられた国立能楽堂は、ユネスコの「世界無形遺産」にも認定されている能楽の公演、振興、演能者の育成、さらには資料の収集・展示など様々な活動を行う一大研究機関として知られています。

本展では、国立能楽堂が所蔵する能楽にまつわる絵画、装束、面、また舞台美術[作り物]などさまざまな美術工芸品を通して、舞台とは一味違う能楽の世界をご紹介します。屏風や画帖おもてに描かれた演能の様子、また装束や面で学ぶストーリーなど、作品が語る能と狂言の魅力をこの機会にお楽しみ下さい。



細見美術館

# 描かれた能 — 絵で楽しむ、文様が語る —

主な作品



道成寺



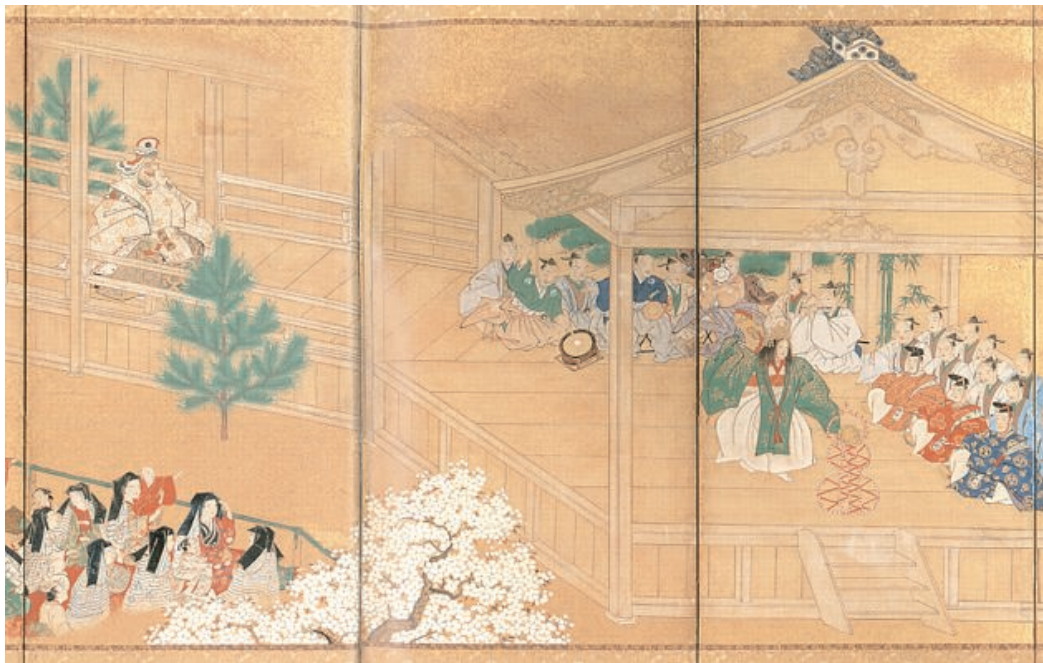
翁 狩野栄信筆



大鼓胴



翁扇 蓬莱山図



のうがくずびょうぶ  
能楽図屏風 六曲一隻 (部分)

「難波」の後場を描いた作品。一方、桜が満開の見所には、御所被の公家の女房衆と子供しか見られない。その髪の結い様から、江戸時代中期に描かれたと思われる。演能のみならず、当時の風俗を窺い知ることのできる興味深い作品。

# 描かれた能 — 絵で楽しむ、文様が語る —

主な出品



もえぎじまんじからはなもようあわせはつび  
萌黄地に卍唐花模様袷法被

袷法被は、荒武者や鬼畜のような強い役に用いられる。

萌黄地に卍文様を石田畳状に配し、上紋風に唐花を散らしたこの作品は、袷法被らしい意匠を楽しむことができる。隙間なく配置された卍文様と、大きな唐花文様が特に目をひく一領。演能の様子だけでなく、当時の風俗を知ることのできる興味深い一点。



べにじゆきもちつばきもようからおり  
紅地雪持椿模様唐織

唐織は、能装束の中で最も絢爛豪華な装束。女役専用の表着で、紅色の有無が年代を表わす。本作のように、紅入りのものは、若い女性の役に用いられる。

この作品は、明治時代に梅若実が宝生九郎から譲り受けた宝生大夫家伝来品。宝生大夫家では、この雪持椿の文様を「道成寺」決まり物としている。

特別展 国立能楽堂コレクション

# 描かれた能 — 絵で楽しむ、文様が語る —

主な出品



紺紅段花入亀甲繁桐打板模様厚板



白地青海波花熨斗模様縫箔